

平成28年度光市行政改革市民会議（第3回）【要旨】

開催日時 平成28年8月24日（水）

13時15分～14時45分

開催場所 市役所本庁大会議室1、2号

1 政策企画部長あいさつ

お忙しい中、またこうした暑い中、皆様お集まりいただきまして感謝を申し上げたいと思います。行政改革市民会議ですが、4月、5月に開催しまして、今回で3回目になります。今年は、前回説明した行革大綱と、今日、皆様にお示しする公共施設等総合管理計画の2件が大きなテーマとしてありますが、皆様に形のあるものをお示しするために、4月、5月に開催して以来少し時間を頂きました。

事前に資料をお配りしておりますが、「今後の方向性欄」については調整中の段階で、皆様から忌憚のない意見を頂きまして、これから策定作業を進めていきたいと考えております。

ところで、今年は10月23日に市長、市議員の選挙が予定されています。候補予定者の公約や思いなどを記載したリーフレットなどを読んでみますと、我々が、今、将来に向けて危機感を持って取り組んでいる公共施設の再編や総量削減について、具体的な内容が書かれているものは見受けられませんでした。このことは、公共施設の再編や総量削減が、市民の理解や賛同を得にくいことの裏返しであるということを感じています。

しかしながら、我々は、この取組みについて、今、取り組まなければ、必ず将来に禍根を残してしまうという危機感を持って取り組んでいます。委員の皆さんには、こうした危機感を共有していただき、各論に入れば大きな問題も出てきますが、大所高所から我々の取組みを後押ししていただきたいと思います。もちろん、今の生活がある市民の要望についても十分承知していますので、そのことについても考慮しながら、取組を進めていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

簡単ではありますが、お礼と冒頭のあいさつとさせていただきます。

2 議題

(1) 光市公共施設等総合管理計画（素案）について

光市公共施設等総合管理計画の素案について事務局が説明した後、各委員から意見、提言を受けるとともに、意見交換を行いました。

【委員意見及び事務局回答要旨】

会長

ただ今の事務局からの説明について、皆さんから忌憚のない意見を頂きたいと思います。

委員

全体として効率化という考えで整理されており良いと思うが、ただ、この切り口だけで最後まで整理していくのでは不十分ではないかと感じました。

たとえば、光市の魅力や、シンボルや、情報発信の観点からの切り口を付け加える必要があるのではないかと思います。光市の文化的な財産、他市に誇れるPRを絡めることで、最終的に施設はどうするかということにつながるのではないかと思います。

一例ですが、今回のオリンピックに関連して、光市はヨットが高校総体などで優秀な成績を上げており、そのあたりについても光市の魅力ということで、切り口として付け加えてはどうでしょうか。

事務局

こうした部分を、公共施設等総合管理計画の中で大きく広げていきますと、別に策定しています総合計画のようなものになってきてしまいます。行政サービスとしての公共施設が今回の計画の中心になってきますので、文化財などを含めたシンボリックなもの、市のPRとなるもの、という考えより、あくまでも行政サービスを維持していくために公共施設をどうしていくかということが計画の中心となってきます。

委員

基本的な考え方については、市の考え方でよいと思います。ただ、そうした考え方に付け加えて、先ほど言った切り口を含めてみたらどうですかという一つの提案として意見を申し上げました。

事務局

ご意見を否定したわけではありません。そのような考え方、切り口についても、念頭に置きながら整理を進めていきたいと思っています。

事務局

ただ今の意見の中の切り口についてですが、この総合管理計画で扱うというよりも、並行して策定を進めています総合計画の中で、光市の魅力やシンボルや情報発信といったことについても整理を進めているところです。

公共施設等総合管理計画は、市民サービスに直結する、市が公共施設として提供するサービス量をどうするか、という分野別計画のようなイメージを持っていただくのが良いのかもしれない。

公共施設等総合管理計画は、総合計画との連携、整合性を取りながら進めていきたいと考えています。

会長

公共施設等総合管理計画と、光市総合計画との関係についてですが、光市がどのようなまちづくりを進めていくかということは、当然、公共施設のあり方にも関係してくると思います。

光市は、おっぴい都市宣言を掲げていますが、民間の産婦人科が充実していることが、おっぴい都市という意味なのかというと、違うように感じます。子どもを育てる親世代にとっては、他市と比較してより魅力的なサービスが提供されているか、保育園や認定こども園の数をどうするかということが重要であり、それは公共施設のあり方と表裏一体であるように思います。

事務局

素案の41ページにあるように、建物を更新する場合、「まちづくり」の観点と「行政サービスの機能の維持」の観点を、切り離しているわけではありません。

総合計画で計画されたことを実行していくためには、一定の限られた財源の中で重点化を図り、整理すべきは整理すべきだという思いを持っています。20年後は確実に人口が減少する中で、今の我々の価値観で必要量を考えるのではなく、掲げた目標に向かって取組みを進めていきたいと思えます。

ただし、この目標に向かって右肩下がりに一直線に進むわけではありません。例えば、高齢者の人口は、これから10年は増え続けることが予想されています。時代の変遷の中で、必要なものは整備していく必要がありますが、最終的には掲げた目標に向かって削減を進めていくことが重要であると考えています。その際の整備のあり方については民間の活力を活用するなど、検討して進めていきたいと考えています。

総合計画と公共施設等総合管理計画の関係ですが、一例をあげると幼稚園などは、子どもの数の減少に伴い、量については縮小していく必要がありますが、一方で、そこで提供されるサービスについては、質を上げていく必要があると考えています。総合計画という全体の公共サービスを示す計画の下で、公共施設等総合管理計画は、量の削減についての計画であると考えていただくと理解しやすいのではないかと思います。

総合計画と公共施設等総合管理計画を切り離して考えるのではなく、担っている役割が違うということを理解していただきたいと思えます。

委員

繰り返しになりますが、基本的な考え方については、市の考え方で良いと思えます。ただ、第5章の中での方向性を考える際に、先程のような切り口を念頭に置いて記述をしてみたらどうですかということです。

委員

先程の議論の中でありましたが、まちづくりといった大きな取組みではなく、あくまでも公共施設のあり方をどうするのか、という観点から議論したいと思えます。

資料を一読して、光市にはこんなにも公共施設があるのかと驚きました。また、これだけの公共施設があることを知っている市民がどれだけいるのだろうかと感じましたが、こうした市内にある公共施設を、一元的に管理している部署があるのですか。

また、実際に施設を利用してみると、使い勝手が悪い施設が多いのが現状です。使い勝手の悪い施設については、見直しや廃止をして欲しいと思います。

事務局

これだけの公共施設があるという実態について、市民が知っているかというおたずねですが、平成26年度に、本市の公共施設について全体を集約し、「見える化」を図るための資料として、公共施設白書を公表しました。また、昨年8月には、施設類型ごとの施設の数や延床面積など、光市の公共施設の現状をまとめた「どうなるの？私たちの公共施設」というリーフレットを作成し市民の皆さんに配布しました。公共施設の実態については、市民の皆さんにお伝えしてきたところですが、PRが足りなかったのかもしれない。

また、市内にある公共施設を、一元的に管理している部署があるのかという点については、行政改革・情報推進課が横断的に整理をしています。具体的な施設の内容については所管課がより詳細に把握をしています。

使い勝手の悪い施設については、一部の使い勝手が悪いからといってその施設全体を廃止する訳にもいきません。使い易い施設にするためにどのような方法があるのか、機能を改善していくことが可能なのか、また、改善が難しい施設については将来的に廃止して複合化していくのか等、施設に対するご意見については、施設の今後を考える際の、参考にしたいと思います。

事務局

使い勝手の悪い施設とは、具体的にはどこの施設でしょうか。

委員

小学校の体育館のトイレは、子ども向けのトイレしかなく、大人が使用する際に大変不便です。高速道路のSAにあるような、子どもでも大人でも両方にとって使い勝手が良いようなトイレにできないものかと思います。改修をするのなら、そういった点も考慮に入れて改修して欲しいです。

事務局

学校によっては大人用のトイレが設置されている学校もあります。ただ今の意見については教育委員会に伝えたいと思います。

事務局

少し補足となりますが、計画の内容について担当から説明がありましたが、公共施設の適正配置をこれから進めるにあたって、この計画がどのような位置にあるかという点を説

明いたします。

公共施設の適正配置を進めるということについては、アンケートの結果から見てもいわゆる総論賛成ということで、市民の皆さんの理解を得ていると考えていますので、将来の人口減少に対応するため、市として公共施設全体のあり方をこのように進めていきたいという、思いや方向性を示そうとしているものです。当然、具体的に個別の施設の検討を進める段階では、地域や関係する団体との協議や調整というものは必ず実施していかなければいけないと考えています。

第4章では全体的な考え方について、また、第5章では施設種別ごとの方向性をまとめたいと考えています。本日の会議の資料の中では、市がこのように進めたいという考えを示しているわけですが、この方向性について市民の方の考えと大きく隔たりがないと考えていますが、そのあたりについても委員に方から考えを伺ってみたいと思っています。また、視点、考え方について不足している部分がないか、また、書きすぎている部分がないか、ということについてもお聞きしたいと思います。

頂きました意見は、委員としての意見ですので、この会議での発言によって責任を負うようなものではありません。また、パブリックコメントなどを実施して、市民の皆さんに周知を図って、幅広く意見を頂きたいと考えています。

前回の行革市民会議の際に、職員も一市民なのだから、職員の思いを率直に計画に取り込んでいくべきだ、という意見を頂きましたが、職員も一市民であることは変わりませんが、市の組織の中の公務員という立場で、実際に市民の利用がある施設を廃止することは非常に難しいということもあります。また、民間にできることは民間に、という考えを持っていますが、それが難しい施設もあります。

市民の皆さんからの声ということで、取組みの後押しとなることもありますので、率直な意見を頂きたいと思います。

委員

16ページの類似団体との比較を見て驚いたのですが、下松市は各種の調査などで、全国的に住みよい街の上位にランクしており、感覚的には、公共サービスが充実しているから、住みよい街の上位にランクしていると考えていましたが、類似団体との比較を見ますと、実際には光市と比べて1人当たりの公共施設の保有面積が少なくなっているのはなぜなのでしょう。

2点目は、第5章の施設類型別の適正配置等の方向性の中の、現状と課題欄の記述は、アンケートの回答の傾向を基に記載しているのではないかと思います。私の経験からすると、アンケートを基に商品開発すると平均的で、特徴のない商品が出来上がってしまう傾向があります。そうしたことから、この現状と課題欄には、光市としてどうしていくのかということ盛り込んでいく必要があると思います。施設の削減をしていく中であっても、一方で施設の更新はしていかななくてはいけない場合もあると思います。そうした施設の更新をする際に、光市としてどのような特性を発揮していくのかということが、少し見えないうような感じがしました。

3点目は、予防保全による長寿命化の推進についてですが、現在は壊れた時に事後的に修理していたのを、これからは壊れる前に事前に修繕することだと思います。一般的に製造業の場合は、設備が壊れたことによる製造ラインの停止を起ささないために予防保全を実施しています。コスト削減の観点からすると、予防保全をすることで、必ずしもコスト削減につながるとは限らず、むしろコストが増加するのではないかと考えています。

事務局

1点目と3点目の質問については、後程、係長より回答させます。

2点目の質問の、光市としての特徴が示されていないということですが、更新が必要な施設については、更新する際に複合化などを進めていきますが、使いやすい施設にしていく必要があると考えていますので、施設整備の際にはそうした視点は掲げていきたいと考えています。

事務局

1点目の下松市との比較の件ですが、実際に下松市は、光市と比べて1人当たりの保有面積が少なくなっている一方で、「住みよさランキング」では、光市よりも上位となっているのはなぜかというおたずねだと思います。

下松市の方が、一人あたり保有面積が少なくなっている理由のひとつは、市営住宅の量が、光市と比較して少ないということがあげられます。ただ、公共施設の総量自体が少なくても、まちの魅力という部分では、市民ニーズに合った公共施設が整備されているかどうか、というところが重要になってきます。光市は、今の市民ニーズに合っていない施設が多くあるという可能性が考えられます。市民ニーズを的確に把握して、ニーズに沿った施設を整備できれば、下松市のように少ない施設量であったとしても、大きな満足度を得られるという状況になるのではと考えています。

3点目の予防保全の件ですが、予防保全というのは基本的には費用が発生しますし、必ずしもコスト削減に直結しないというのは、その通りです。予防保全の実施については、出来るだけ今ある施設を長く使用していきたいという考えに基づくものです。

公共施設については、この予防保全の取り組みをあまりしてこなかったという側面があります。予防保全を取り入れることで将来的にコスト削減が可能となる施設もありますし、長寿命化が可能な施設に対しては、予防保全の考え方を積極的に取り入れたいと考えています。一方で、事後保全の方が効果的である場合については、事後保全で対応するなど、施設の状況等によって使い分けをしていきたいと考えています。

委員

公共施設等総合管理計画では市民にとっては、施設が一方的に減らされるというイメージが強いですので、施設を更新する際には、今までの施設にプラスアルファで何か機能を追加するなどの方針を掲げた方が、市民にとって夢があるのではないかと思います。

事務局

そのあたりの考え方が、この計画の中でどのように表現できるかについては、検討させていただきたいと思います。思いとしては、総量は少なくなるとしても、複合化や機能集約するなどした後の形は、利便性が高まったと市民の方から思われるようなものにしていくことが、この取り組みの意義だと思っていますので、こうしたことも十分踏まえて進めていきたいと考えています。

委員

使い勝手が悪いとか、利用者が少ないという理由で、施設が廃止されてしまうのは寂しい感があります。その原因は光市の人口が減少しているということに尽きます。企業の誘致や商業施設の充実など、人口減少に歯止めをかけるまちづくりを中心とした考え方に沿って、計画を策定して欲しいと思います。

事務局

まちづくりにつきましては、総合計画の中でしっかりと整理していきたいと考えています。必要な公共サービスを維持するという視点で、必要な公共施設を確保していきたいと考えています。人口が減少していく中で、過剰なサービスにならない範囲での整備は進めていきたいと思っています。

事務局

公共施設等総合管理計画を読みますと、光市のあらゆる施設を減らして市民にとってはマイナスでしかないような印象を与えているかもしれません。しかしながら、我々の意図するところは、決してそうではないということは、ご理解いただきたいと思います。

施設の総量については適切な量を目指していきますが、その中身である行政サービスの提供については、市民ニーズに的確に応えた上で、総量の削減に取り組むという点をご理解ください。決して、行政サービスを低下させることを目的にしているわけではありませんし、施設量の減少に対しては、サービスの質の向上で応えていきたいと思っています。

一例ですが、ライフステージに合わせて、家を3回建て直したら、満足できるといわれています。実際には3回も家を建て直す資力はありませんので、限られた状況のなかでどうやってやりくりしていくかということが重要になるわけです。それと同じで、光市においても、それぞれの時代において求められる市民サービスが異なりますが、それを提供するのには行政の宿命であり、施設総量を減らしていく中であっても、知恵を絞って行政サービスを提供していかなければいけない、というのが我々の思いです。

施設の総量の削減に比例して、行政サービスも削減されてしまうのではないかという心配があると思いますが、適切な行政サービスの提供というのが大前提ですので、その点については心配しないでいただきたいと思います。施設の量の減少については、サービスの質の向上で補い、これからも必要な施設の更新については、必要に応じて実施していきます。

これも一例ですが、図書館のリニューアルを検討したいという意見もあります。仮にリニューアルするような時期が来た時に、ただ単に更新するのではなく、その方法が良いのかどうかわかりませんが、周南市のように駅舎と合同で整備していくなど、様々な方法が考えられます。決して施設の更新を否定しているわけではなく、必要なものは必要なものとして整備していくということをご理解ください。

市民会議の初回の時にお伝えしたことですが、行政改革というのは、削減とか縮減とか切捨てだけではなく、必要なことは続けていきながら、不必要なことを止めるという思いで進めていきたいと思えます。

オリンピックが4年後に控えておりそれに向けてスポーツ施設を充実しなければいけないという考えを持たれている委員さんもいるかもしれません。仮にスポーツ施設を整備しなければいけないとしても、鉄筋コンクリート造りの施設を整備してしまうと、50年、60年管理していかななくてはならないという現実があります。そのため、民間から施設をリースするなどして、一時的に増大する需要に対応し、必要な時代に必要な施設量を確認していくということを考えて、取組みを進めていきたいと思えます。このことについては素案の32ページに方針を記載しています。

会長

施設を集約しながら利便性も確保するとなると、交通の便のことを考えた時に市内を循環するバスネットワークの構築が重要になってくると思えます。このことについては総合計画として扱われるテーマなのでしょうか。

事務局

総合計画というよりは、公共施設等総合管理計画で扱うテーマだと思えます。

委員

光市立病院の跡地を市営住宅と一体で整備して、人が集まれる施設を造ってはどうか。虹ヶ浜地区に、にぎわいを創出できるような集客施設を整備し、室積地区をベッドタウンとして整備するなどして、地区ごとに特色のあるまちづくりをしていくというのはどうですか。

事務局

全て行政で整備していくというのは限界があるため、民間と行政の役割分担を十分に考えた上で、市民ニーズに対応していく方向を模索していきたいと考えています。

会長

光市の市民一人当たりの所得は、県内でもトップクラスである一方で、市営住宅が他市に比べて多く整備されているというのは、理由があるのですか。

事務局

光市にはかつて海軍工廠があったことから、戦後は戦争引揚者のための住宅が整備されてきた歴史的経緯があります。そこに市営住宅を整備したことから、市営住宅が他市と比較して多くなっています。素案の16ページにあります類似団体と比較しても、光市の市営住宅は突出して多くなっています。

また、下松市と比較しますと、下松市は県営住宅が多く整備されている一方で、光市には、県営住宅はそれほど多くないということもあります。

その他

事務局

多くの貴重なご意見・ご提言ありがとうございました。頂いたご意見等につきましては十分検討して、皆さんと議論を深めつつ、反映できるところは反映していきたいと思えます。

次回は11月に開催したいと考えています。数値目標や、調整中としていた方向性等をお示しするとともに、もう一つの計画である行政改革大綱についても素案をお示しして、ご意見をお聞きしたいと思います。

ありがとうございました。